

## 令和2年第30回公安委員会会議録

日 時	自午後1時30分 12月3日（木曜日） 至午後4時05分	場 所	公安委員会室
会 議	公安委員	小野委員長 下山委員 原委員 山本委員 高木委員	
出席者	警察職員	本部長 警務部長 生活安全部長 刑事部長 交通部長 警備部長 情報通信部長	

### 第1 定例会議

#### 1 「ハラスメント目安箱」の開設について

##### 開設の目的

匿名性を重視し、職員が相談内容を気軽に書き込めるシステムを運用することにより、本部担当者がハラスメント事案をタイムリーに認知し、事態が重大化する前に組織的に対処することを目的とする。

##### 【委員からの質問等】

委員から「この種施策については投函者の匿名性の確保と事案解決の双方が必要となる。事案解決につなげるためには、『このようなことを書いてほしい』というフォーマットのようなものがあつた方が良いのではないか」「目安箱に訴えた場合、それに対して組織的にどのように対応されるのかについて職員に示すことが、職員の安心感につながるのではないか」などの意見があつた。

#### 2 令和2年7月豪雨災害警備の反省教訓について

##### (1) 目的

本災害対応から得られた反省教訓を今後の災害警備対策に反映させるため

##### (2) 調査方法

災害警備に従事した本部各班及び各警察署に対し、良好点、反省・改善点についてアンケートを実施し集約した。

##### (3) 主な反省教訓事項

##### ア 災害警備本部

##### 良好点

- 1 熊本地震の経験・反省を踏まえ、災害警備本部の体制を強化するなどの対策を講じていたことから円滑に運営された。
- 2 熊本地震後に強化した受援班が県外からの応援部隊を的確に支援し救出救助活動等に貢献した。

##### 反省改善点

- 【反省点】各部隊は効果的に運用されていたが、部隊編成に時間を要したり、業務負担が多い職員が認められた。
- 【改善点】警察本部の各課が主体となり、迅速な派遣、効率化、職員の負担軽減を考慮した部隊を再編成する。

## イ 救出・救助活動

### 良好点

- 1 警察が救助した人数は351名
- 2 人吉署ではラフティング業者と連携し救出救助活動を実施

### 反省改善点

- 【反省点】浸水により救助現場にたどり着けない状況があり、各署が救助用のゴムボートの追加配備を要望
- 【改善点】各署に救助用のゴムボートを追加配備し、さらに、機動隊に水上バイクの配備を計画

## ウ 警察署における活動

### 良好点

平成30年6月から運用を開始した災害モニターから、道路冠水や河川の水位に関する情報提供があり、災害警備活動に活用された。

### 反省改善点

- 【反省点】管内の浸水地域、冠水道路など、これまで把握していなかった災害危険箇所が多数認められた。
- 【改善点】今回の災害を参考にして、署災害警備計画書を見直す

## (4) 今後の方針

警察本部の各課・各警察署に「令和2年7月豪雨検証結果」をフィードバックし、警察本部の各課が主体となって、今回の反省を活かした災害警備の運用、体制の構築を図り、熊本県警察災害警備実施要領に反映させる。

### 【委員からの質問等】

委員から「生活安全部隊において『熊本市内警察署の女性警察官の負担が大きかった』という説明があったがこれはどういうことか」との質疑があり、警察側から「避難所等に派遣する女性警察官の部隊を編成したが、熊本市内警察署の女性警察官を多く入れて編成したことから、熊本市内警察署の業務に影響が出たというもので、今後は警察本部の女性警察官を多く入れて編成していく」旨の回答があった。

## 第2 報告・決裁等

### 1 審査請求弁明書の報告

少年課長から報告が行われた。

### 2 令和2年第29回公安委員会会議録の決裁

公安委員会事務室から説明があり、決裁が行われた。

### 3 苦情（R2No.11）受理の報告

公安委員会事務室から報告が行われた。

### 4 自己情報開示請求に対する開示等の決定（部分開示）についての決裁

公安委員会事務室から説明があり、決裁が行われた。

### 5 要望（R2No.24）受理の報告

公安委員会事務室から報告が行われた。

### 6 要望（R2No.25）受理の報告

公安委員会事務室から報告が行われた。